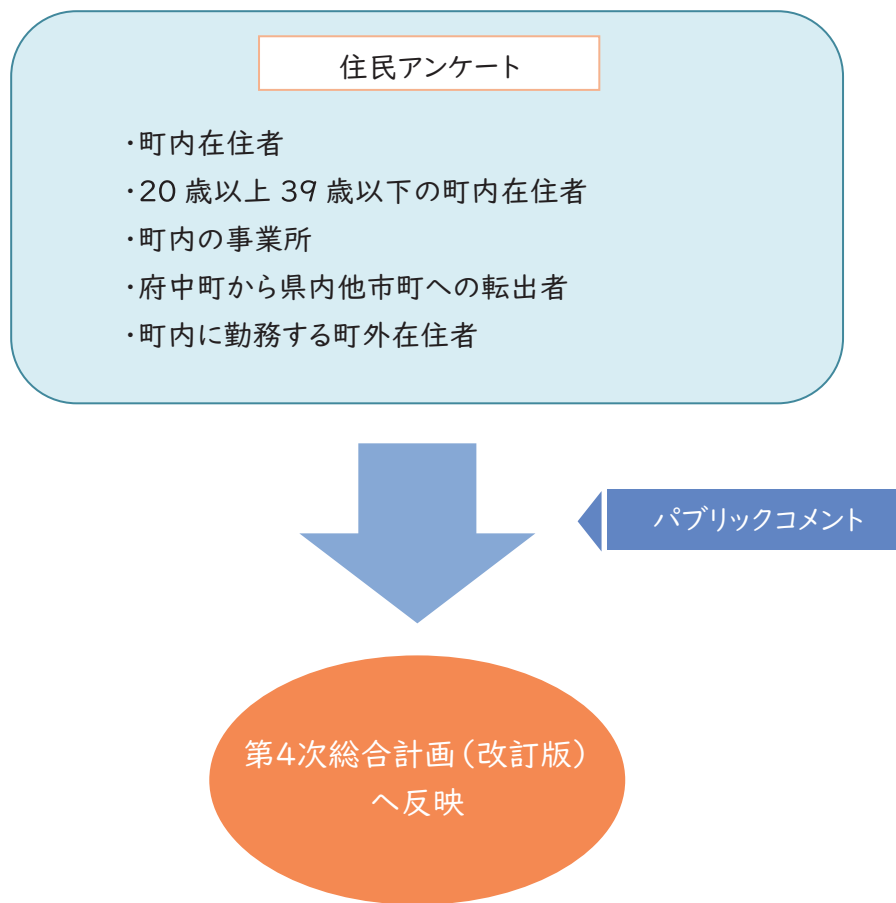


2 住民の参加体制について

2-1 住民の参加体制について

第4次総合計画の改訂にあたり、将来のまちづくりに対する住民意向を反映するためにアンケート調査を実施したほか、パブリックコメント[※]を実施することにより、住民意向を幅広く反映しました。

【改訂にあたっての住民の参加体制】



本文中、[※]印のある言葉は、第4編「参考資料」の「6 用語解説」に掲載しています。

2-2 住民アンケートの結果

住民アンケートについては、第1編「序論」の「3-2 取り組みの成果と課題」に掲載している政策評価を行うにあたり、主な意見等を以下のとおり基本目標ごとに取りまとめて整理しています。

なお、個別の結果については、第1編「序論」の「3-1 住民意向」に主なものを掲載しているほか、全ての結果については、ホームページなどで別途公表します。

【基本目標1】 みんなで支え合い、未来につなぐまちづくり

～子育て・福祉・健康～

- 行政と住民が協働すべきと考える分野として、防災活動、高齢者の支援、防犯活動、子育て支援の順で多くなっています。
- 地域に対する評価として、放課後の子どもの遊び場や、体の不自由な人の活動のしやすさが不十分との意見が比較的多く出ています。
- 保健・福祉の分野では、高齢者・障がい者への福祉サービスの充実と子育て支援の充実が、重点的に取り組むべきものとして多く挙げられています。
- 府中町が目指していきべき将来像の意見として、子育てがしやすいまち、高齢者や障がい者も暮らしやすい福祉に手厚いまち、自然災害に強いまちが多くなっています。
- 20～30代アンケートでは、府中町が暮らしやすいまちとなるために取り組むべきこととして、子育てや教育環境の充実が最も多く挙げられています。
- 20～30代アンケートでは、子どもを産み育てたいと思う条件として、子育てや教育の費用が軽減されることが最も多く、次いで、働きながら子育てができる職場環境、地域の保育サービスが整うことが多くなっています。

【基本目標2】学び合い、志を育むまちづくり

～教育・文化～

- 公民館活動へ参加、もしくは参加の意向がある人の割合が34%である一方、参加を希望しない人が36%となっています。特に、20代では53%、30代では43%が参加を希望していません。
- 地域に対する評価として、放課後の子どもの遊び場が不十分との意見が比較的多く出ています。
- 府中町の施策に対する評価として、スクールカウンセラー※等による児童・生徒へのサポートが、重要度が高いと感じる一方、評価が比較的低い分野となっています。なお、20～30代アンケート及び事業者向けアンケートにおいても同様の結果となっています。
- 教育の分野では、学校教育の充実が重点的に取り組むべきものとして最も多く挙げられています。続いて、文化・スポーツなど生涯学習の振興となっています。
- 20～30代アンケートでは、府中町が暮らしやすいまちとなるために取り組むべきこととして、子育てや教育環境の充実が最も多く挙げられています。
- 町内への通勤者向けアンケートでは、居住地と府中町を比較したイメージとして、文化・スポーツ施設の充実度について、府中町の方が劣っているとの意見が多くありました。

【基本目標3】誰もが安心・安全、快適に暮らせるまちづくり

～安全・環境・地域～

- 町内会活動へ参加、もしくは参加の意向がある人の割合が51%である一方、参加を希望しない人の割合が30%となっています。特に、20代では53%、30代では37%が参加を希望していません。
- 行政と住民が協働すべきと考える分野として、防災活動、高齢者の支援、防犯活動、子育て支援の順で多くなっています。
- 地域に対する評価として、自然災害への対策、歩行や自転車通行への対策、犯罪への対策が不十分との意見が多く出ています。
- 府中町のよくない点として、自然災害に対する不安が大きいことが多く挙げられています。
- 事業者向けアンケートでは、協働のまちづくりについて、取り組んでいない事業所が約58%となっています。また、積極的に参画したい事業所は10%、要請がある場合や興味・関係がある内容ならば参画したい事業所は62%となっています。
- 府中町が目指していくべき将来像として、子育てがしやすいまち、高齢者や障がい者も暮らしやすい福祉に手厚いまち、自然災害に強いまちが最も多くなっています。

本文中、※印のある言葉は、第4編「参考資料」の「6 用語解説」に掲載しています。

【基本目標4】 便利で活力と賑わいにあふれるまちづくり

～都市基盤・住環境～

- 地域に対する評価として、放課後の子どもの遊び場、歩行や自転車通行への対策、体の不自由な人の活動のしやすさが不十分との意見が多く出ています。
- 府中町のよくない点として、道路等の都市基盤の整備が不十分であること、公園が充実していないことが多く挙げられています。
- 府中町の施策に対する評価として、道路等の整備による生活環境の向上が、重要度が高いと感じる一方、評価が比較的低い分野となっています。なお、20～30代アンケート及び事業者向けアンケートにおいても同様の結果となっています。
- 生活利便の分野においては、向洋駅周辺の区画整理と鉄道高架化、補助街路[※]の整備、バスなどの公共交通の充実が、重点的に取り組むべきものとして挙げられています。
- 町外から転入した人による前居住地と府中町を比較した評価として、道路等の都市基盤の充実について、府中町が劣っているとの意見が比較的多く挙がりました。
- 転出者向けアンケートでは、府中町から転出する際に住まいを決めた理由として、最も多く挙げられた理由が住宅価格・家賃であり、次いで交通の便、職場・学校の近さとなっています。

【基本目標5】 持続可能なまちづくり

～自治・行政～

- 町政に関する情報の入手については、広報ふちゅうが85%と最も多く、次いで、町内会回覧板、ふちゅう町議会だよりとなっています。
- 府中町の施策への評価として、各種行政サービスの拡充が、重要度が高いと感じる一方、評価が比較的低い分野となっています。
- 町政運営・サービス等の分野では、財政の健全化が重点的に取り組むべきものとして最も多く挙げられており、続いて長期的な視点でのまちづくりの推進、各種窓口サービスの充実が挙げられています。
- 町外から転入した人が引越し前に府中町の情報を得た手段として、親類・知人等が最も多く、次いで、元々知っていた、府中町のホームページ、インターネットやSNS等と続きます。
- 住まいを探す際の情報源としてインターネットが最も多く、次いで不動産業者となっています。

本文中、[※]印のある言葉は、第4編「参考資料」の「6 用語解説」に掲載しています。

2-3 パブリックコメントの結果

①実施方法

■実施期間

令和3(2021)年1月8日～令和3(2021)年1月25日

■公表物の掲示場所

町ホームページ、政策企画課、本庁2階ロビー、南交流センター

■意見提出方法

窓口提出、郵送、ファクシミリ、電子メール

■意見募集の周知方法

町ホームページ

②意見募集の結果

■意見等の提出者数 2人

■意見等の件数 3件

ページ	意見の概要	意見に対する町の考え方
29 70	向洋駅周辺土地区画整理事業※において遅れが生じている鉄道南側の未整備地区について、令和7年には宅地整備工事を始めていただきたい。	向洋駅周辺土地区画整理事業施行区域は、JR山陽本線の高架化に合わせて幹線道路・生活道路及び公園等の公共施設の整備を行うほか、既成市街地の再編による宅地の利用増進を図り、府中町の南の玄関口にふさわしい拠点として都市形成させていくこととしています。 関連事業である広島市東部地区連続立体交差事業※が本格化されたこともあり、土地区画整理事業についても、これらの事業と連携を図りながら推進してまいります。

ページ	意見の概要	意見に対する町の考え方
66	<p>町内企業や、国・広島県等と連携し、<u>SDGs</u>※関連のビジネスやエネルギーを創出し、産業を活性化させることを盛り込むことを希望する。</p>	<p>産業につきましては、地域産業の発展に向けた支援を基本計画に掲げており、現在、<u>広島広域都市圏</u>※内の市町と連携して製造業の活性化に向けた施策を実施しています。また今後は、事業者の販路開拓支援を行うことで、更なる活性化を図りたいと考えています。</p> <p>頂いたご意見につきましては、産業の活性化に向けた今後の更なる取り組みの検討にあたり、参考とさせていただきます。</p>
75	<p>町内企業や国・広島県等、官・民・学も連携し、まちづくりに関わる環境づくりを進め、新しいまちづくりを模索していただきたい。</p>	<p>当町では、広島広域都市圏において他の自治体と連携し、住民にとってより良いサービスを提供できるよう取り組みを進めています。また、町内企業との連携についても<u>包括連携協定</u>※を締結するなど、取り組みを行っています。</p> <p>今後も各主体と連携し、「住んでよかった、住んでみたいまちづくり」を進めてまいります。</p>